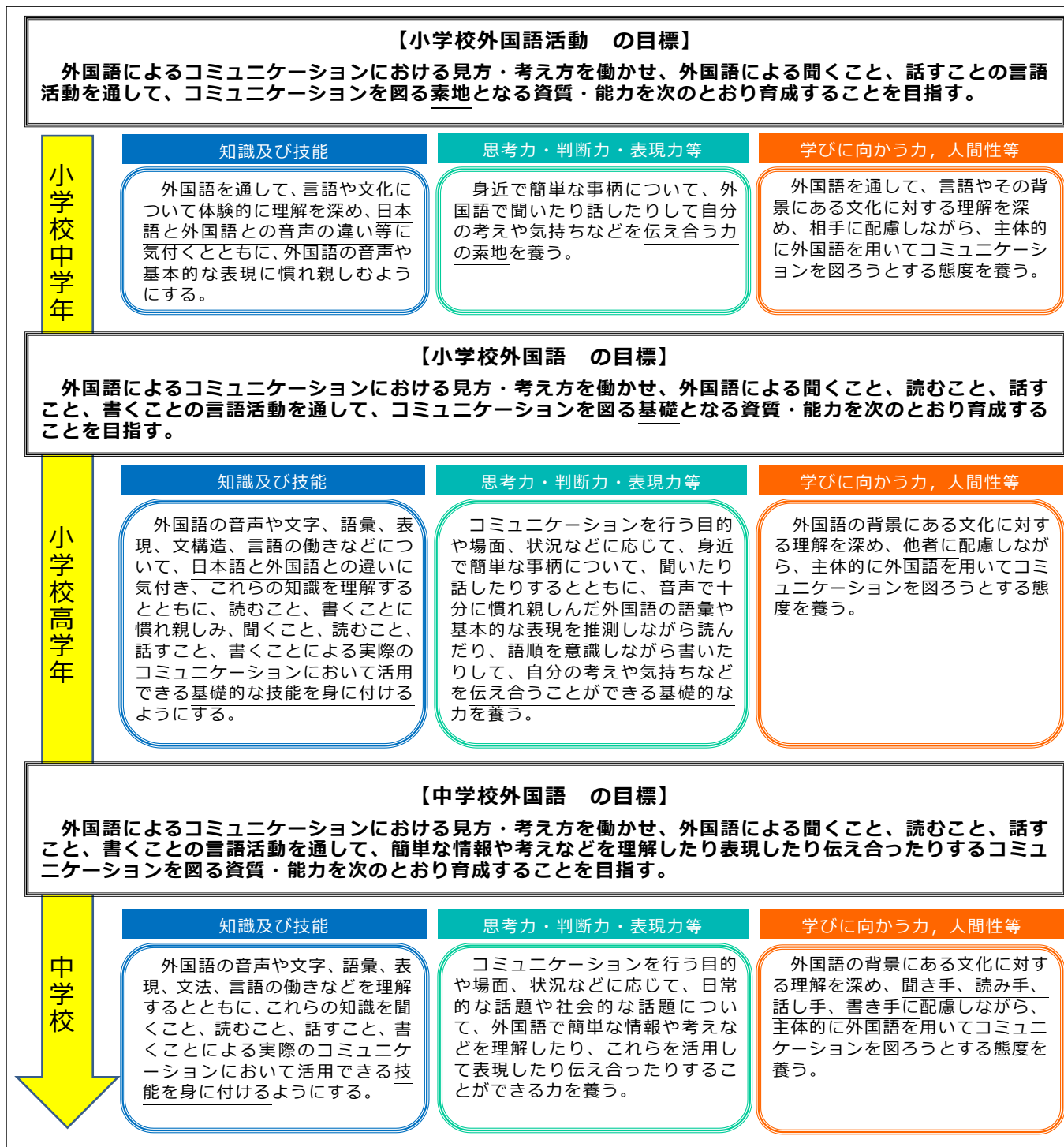


(2) ⑪ 小学校外国語活動・外国語・中学校外国語

育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

外国語活動と外国語科では、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するために、五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することが求められています。



★目標の改善

各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする観点から資質・能力の三つの柱に沿って、目標が整理されました。

🗨️ 解説 小学校外国語活動・外国語編 p.7～、p11～、p62～、p67～ 中学校外国語科 p.5～、p10～

具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

★内容の改善・充実

今回の改訂では、外国語教育において育成をめざす三つの資質・能力を確実に身に付けられるように、小・中・高等学校を通じた五領域別の目標の下で、内容等が整理されています。

(五領域：聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと)

○話すこと〔やり取り〕の領域を新設

○小学校外国語科に「読むこと」「書くこと」の領域を導入

[読むこと]

- ・活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようにする。
- ・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

[書くこと]

- ・大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。
- ・語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- ・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。

○中学校外国語科で取り扱う語彙数の増加

1200 語程度→2200～2500 語程度（小学校で学習する 600～700 語程度を含む）

○中学校外国語科の文、文構造及び文法事項について数項目を追加


「感嘆文のうち基本的なもの」や「仮定法のうち基本的なもの」、「現在完了進行形」など

☞ 解説 小学校外国語活動・外国語編 p.8～10 p.64～66 中学校外国語編 p.7～10

主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

外国語活動、外国語科における「深い学び」の実現のためには、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、児童生徒が「見方・考え方」（5・6ページ参照）を働かせることができるように、五つの領域における言語活動と振り返りの充実を図ることが必要です。

《外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程》

- 
- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
 - ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
 - ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
 - ④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。

※ ①～④の中で学んだことの意味付けや言語活動における既得の知識や経験、新たに得られた知識の活用が重要です。

☞ 解説 小学校外国語活動・外国語編 p.53、p.132 中学校外国語編 p.97